

舞踊における媒体の問題について

早稲田大学大学院 石渕 聡

1. 舞踊に含まれる複数の媒体について

まず、観客が舞踊からある内容（註1）を享受すると考えた場合、舞踊はその内容を観客に運ぶ媒体として考えられる。そしてもう一方では、観客が舞踊を享受すると考えた場合、舞踊はある媒体によって観客にもたらされると捉えることができる。後者においては舞踊が示す内容とは、舞踊を観客にもたらす媒体であると考えることができる。舞踊の内容に相当するような媒体をさしあたって舞踊の上演の中に見出すとするならば、ダンサー、舞台、照明、音楽、衣装、オブジェなどを挙げることができる。

ここで留意することは、上に挙げた諸媒体が重層構造的なあり方を示すということである。つまり、それぞれが更にその中に内容を持っており（その内容がまた当のものの媒体となっている）のである。例えば、音楽を取り出して考えてみると、それは舞踊の媒体であり内容としての機能を担っていると同時に、それ自体もまた、その中に音響的要素、音響空間、音源などの媒体／内容を含み込んでいる。

このように、舞踊の上演に見出すことのできる様々な媒体／内容を重層的な構造として捉えてみると、ダンサーは特別なあり方を示すものであることが分かる。すなわち、ダンサーが諸媒体／内容の関係を成立させるような中心的な機能を果たしているということである。ダンサーという媒体／内容を認めるだけで、その他の（全ての）媒体／内容が成立するということである。つまり、観客が舞踊をダンサーとして受容することは、その中の舞台、照明、音楽等をすべて舞踊の内容として（ダンサーを介しての）受け取っているということである。このような意味において、舞踊は「ダンサーとして示される」ということができる。われわれが通常、舞踊とダンサーを不可分のものとして捉えているということもこのことによって説明し得る。

2. 内容としての舞踊

以上の議論は、舞踊が媒体として機能する側面、つまり、ダンサーや他の諸媒体が舞踊の内容として機能する側面を検討してきた。（媒体／内容と記してきたのは、それらが舞踊の媒体として機能する可能性を失わせないためである。）今度は、舞踊がそれらのものによって運ばれる内容としての機能を考えてみたい。しかしながら、この媒体／内容を顕在化させることが困難であるのは、舞踊という媒体／内容の機能が観客が通常上演にお

いて体験する際、ダンサーの媒体／内容の機能に吸収されてしまうからであり、言い替えれば、ダンサーの媒体としての機能が顕在化しないからである。媒体／内容としての舞踊が観客にとって顕在化するためには、一つには、その外側に新たな媒体が現れ、舞踊を取り込むことによって、舞踊を内容として提示することが考えられる。そのような事態は、例えば、演劇や映画の中で舞踊が引用されることであったり、舞踊の中に複数のスタイルの舞踊を並置させるような演出によって、「舞踊が内容であること」が観客に意識される場合などである。ここではこのようなメタ舞踊の枠組みを設定するのではなく、これまで舞踊の内容としての視点を取ってきたダンサー以下の諸媒体／内容の媒体的な機能の結果として、舞踊の内容としての機能が照射し得ると考えられる。

内容としての舞踊の主要な機能は、ダンサーとその他の媒体を、内容としての舞踊に向けて関係づけるということである。この関連付けの機能は、舞踊がある内容として諸媒体を一つの枠の中に閉じさせ、方向づけようとするものである。この機能は、舞踊に新しく別の媒体が導入されようとも無化されるものではない。例えば、映像が舞踊作品の中にまるで舞踊を中断するかのように映写され、舞台はその時、上演空間から上映空間に変えられるような演出があったとしても、その作品は舞踊として一貫性を保持するのである。その時、観客は「上映のシーンを含む舞踊作品」として受け取ることになる。すなわち、ダンサー以下の諸媒体が舞踊という内容を提示することで、たとえ一時的にダンサーが消えたとしても不在という形でその媒体としての機能は持続しているのである。それによって、映像という媒体をダンサーによって支配されるようなものとして含み込むことができるのである。もちろんこのことは映像だけでなく、他の媒体の介入でも同様である。

このように内容としての舞踊の機能は、様々な媒体を取り込みそれに一貫性を持たせることである。つまり、諸媒体を文字どおり一つの舞踊に仕立て上げるということ、そして、その手段としてダンサーを主要媒体として機能させるということである。

註1 通常は「内容」は「形式」に対して、「媒体」に対しては「メッセージ」という語が用いられているが、ここでは、「媒体」がもたらすものが必ずしも発信者と受容者を備えたものではなく、作品の構造上の問題を整理する操作概念として用いることから、「媒体」がもたらすものを「内容」という語をもって統一する。